



韓国研修（天安中央高校）

この研修は、韓国の天安中央高校との共同プログラムとして開始してから10年目を迎えます。夏に高2ASコース全員が韓国の天安中央高校を訪問し、共同授業に参加しホームステイを行います。冬には天安中央高校の生徒と先生を迎えます。7月16日(火)には広島修道大学の朴大王先生を迎えて、韓国語や文化に関する事前学習を行いました。ASコースの生徒43名とその保護者、そして引率の教員が参加しました。

1日目:7月24日(水)

この日は朝7時20分に広島駅に集合し、天安に向けて出発しました。福岡駅までは新幹線に乗りました。その後、飛行機で仁川空港に、仁川空港から天安のホテルまではバスで移動しました。皆でサムギョプサルや韓国のりを食べた後に、ホテルの会議室にて地域・学校紹介や課題研究の内容紹介の準備をしました。

2日目:7月25日(木)開講式



地域・学校紹介の様子



朴先生の講義の様子

ことばの背景には、その国の思想や文化があることを知るとともに、研修が楽しみになりました。



課題研究の内容紹介の準備

天安中央高校に到着後すぐに、開講式が行われました。先生方の紹介、両校生徒によるスピーチ、地域・学校紹介の後にプレゼントを交換しました。このプログラムのこれまでの経緯を聞き、天安中央高校でもとても人気があるプログラムであることを知りました。けん玉実演も盛り上がりしました。

事前学習で感じたこと

朴先生の講義では、先生の経験をもとにして、韓国と日本の文化の違いを教えていただきました。食事の際にお茶碗は持って食べないこと、スキンシップであっても相手の頭や顔を触ることはタブーであること、基本的に家庭のお風呂はユニットバスであり、相手に対して入ることを勧めるのは失礼な行為であることなど、日本との違いに気づくことができました。



右車線を走る左ハンドルのバスに乗り天安に向かう途中のサービスエリアにて



サムギョプサルと韓国のり



教員のスピーチ 生徒のスピーチ



プレゼントの説明

けん玉実演



広島大学附属高等学校

〒734-0005
広島市南区翠一丁目1番1号

TEL: (082) 251-0192
FAX: (082) 252-0725

天安中央高校の生徒宅にホームステイ

7月25日(木)の夕方から一泊、ホストファミリー宅にステイしました。韓国の家族との対話を通して、いろんなことを学びました。



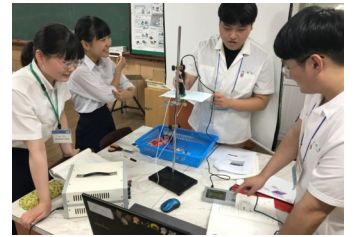
韓国のニュース、報道で紹介

韓国のテレビ局から取材があり、授業の様子などが紹介されました。その中で、このプログラムが10年目を迎えること、科学を通して両国の生徒たちが世界の問題を解決する人材に成長することが期待されていることなどが報じられました。

Tjb News Link (<http://www.tjb.co.kr/sub0301/bodo/view/id/38278/version/1>)

2日目:7月25日(木)物理・化学の共同授業

両校の生徒がA、B2つのグループに分かれて実験・討論をしました。物理の授業では、コイルを用いて電磁場の強さを変化させる実験を行いました。また簡易イヤホンを作って音の大きさに違いがみられることを確かめました。化学の授業では、高分子結晶の性質について学びました。液体を混ぜたり、燃焼させたものに光を当てて何が変化するのかを調べました。物理、化学の授業ともに、実験装置の使い方がわからないときは天安中央高校の生徒に聞いて実験を進めました。



物理の実験の様子



化学の実験の様子

3日目:7月26日(金)課題研究の発表

両校の課題研究の内容を発表し、その後議論しました。発表やスライド作成の工夫について学びました。また両校で生物のゼブラフィッシュについて研究しているグループが共同研究することになり、その打ち合せも行いました。



課題研究の内容を発表する様子

3日目:7月26日(金)閉講式



参加者全員で記念撮影

閉講式では、先生方のスピーチ・プレゼント交換、両校生徒のスピーチの後、再会を約束して記念撮影を行いました。あっという間の研修でしたが、私たちにとって実り豊かな研修になりました。



生徒のスピーチ

編集後記

私たちにとって韓国に行くのは初めての経験であり、いろいろと緊張しました。英語の技能を高める必要性を強く感じたとともに、課題研究をさらにながらうと思いました。

また、日本代表として海外で課題研究の内容を発表した先輩から大きな刺激を受けました。

次号では先端科学研修(9月)について報告する予定です。

(担当: II年3組AS委員)



卒業生がアメリカで発表

5月にアメリカで開催されたインテル国際学生科学フェア2019に参加し、課題研究の成果を発表してきました。世界各国の学生の研究内容のレベルの高さはもちろんのこと、伝えようとする情熱や表現力に驚き、刺激をもらいました。どのように自らの研究の重要性や面白さを伝えるのかもとても大切なことだと感じました。ASコース(旧SSコース)では研究だけでなく講義や研修、発表を通して様々なことを感じ、学び取ることができたのでASコースに入ってよかったと思っています。(2019年卒 小勝負雄太)



発表後の様子(写真は左から、渡辺敬太、小勝負雄太、石河諒太郎さん)